



ガザへの空爆で亡くなった

「地球のステージ」が 15 年間育ててきた特派員モハマッド・マンスールの写真より

（写真：モハマッド・マンスール）

（翻訳：桑山 紀彦）



地球のステージ 代表理事/案内役

桑山 紀彦氏(心療内科・精神科医)



日本で医師として診療を行う一方、パレスチナ、ウクライナ東ティモール、地震被災地等での国際医療支援活動の他、「地球のステージ」の公演など幅広く活躍中。東日本大震災では自ら被災しながらも翌日から診療を再開、被災した人々の心のケアを行う。現在は神奈川県海老名市に「海老名こころのクリニック」を開設。

月に2回以上も世界各地の紛争地などを訪れ、多くの子どもたちと接しながら、PSS(心理社会的支援)を進めている。



チャイルドライン「もしもしキモチ」は、

- 子どもの立場に立って悩みや言いたいことをじっくりと聴き、受け止め、共感する子どもの側に主導権がある、子ども専用電話です。
- いじめや虐待、不登校、ひきこもりなど子どもをめぐる状況が深刻化し、出口の見えない閉塞状態にいる子どもたちに働きかけ、子どもが自らを表現することにより悩みをのりこえ、自立して生きていくことを支えようとするものです。
- 2001年10月、子どもの現状に深く思いを寄せる、福岡県内のさまざまな分野を代表する人たちが呼びかけ人となり、発足しました。
- 2005年、認定NPO法人の認定を受けて以降、6回の認定を受け活動し続け、本年設立25周年を迎えます。

■主な取り組み

- ①子ども専用の電話・オンラインチャット「チャイルドライン「もしもしキモチ」の実施
- ②受け手(相談員)の研修、育成
- ③子どもを取り巻く環境の諸問題に関して、社会への啓発、広報活動
- ④子どもを取り巻く環境の諸問題に関して、諸機関との連携、交流及び共同研究

桑山さんのステージを福岡の子どもたちに

様々な命が共に生かしてもらっているこの地球に平和が訪れるには、まず人間が何をしてはならないのか？

一人ひとりの力は小さくても、周りの一人に伝えることで、その波は広がってゆく。たった一つの小石に過ぎない私でも、小さな波、小さな風は起こせるかもしれない。そしてそれが繋がることで、大きなうねりも起こるだろう。

少なくとも私たちは、爆撃音が聞こえない日本にいる。

これは先人たちの大きな犠牲の上にあることを忘れず、今ともにできることを考えゆきたい。

ウグイスの 声聞かせたい ガザの町

25周年記念事業実行委員長 山田 真理子



西南学院大学付近地図

チャイルドライン「もしもしキモチ」設立 25 周年記念事業
未来を担う子どもたちの「生きる力」を育みたい！！

地球のステージ

In Fukuoka



パワーを分け合い、高め合う子どもたち（パレスチナ自治区ガザ）



地球のステージは、代表の桑山氏が実際に現地に赴いて撮った写真や動画と、そこで感じたことを言葉にし曲を付けた歌で構成したコンサートステージです。

1996 年から年間 150 回ほど、全国各地及び学校で行っています。世界の紛争、災害の地で現役医師が出会った人々の輝き、明るくたくましく生きる姿をオリジナルの音楽と大画面の映像、語りを交え、観た人がそれぞれに受け止め、共有できる内容になっています。

日 時：2025 年

11 月 23 日（祝・日）13:30 開場 14:00 開演

会 場：西南学院大学 チャペル（裏面地図参照）

参加費：おとな（大学生以上）1,500 円 こども（小～高校生）500 円



申込フォーム

ご 予 約
問 合 わせ

主催：特定非営利活動法人チャイルドライン「もしもしキモチ」（認定 NPO）

チャイルドライン「もしもしキモチ」設立 25 周年記念事業実行委員会

TEL：092-734-1540 kimochi2@coral.ocn.ne.jp HP：<https://moshi2.jp/>

後援：福岡市教育委員会、西南学院大学、西日本新聞社